

美術館活用ガイドブック

1 to 1

ワン・トゥー・ワン

水戸芸術館現代美術センター
教育プログラム

「1 to 1」心を広げる場所へ

このガイドブックは水戸芸術館現代美術センターが年度を越えて継続開催している教育プログラムをまとめたものです。はじめて現代美術にふれる方や何らかの理由でアクセスが難しい方たちが、身構えることなく美術館を利用していただけるよう、年齢やコミュニティにあわせてプログラムを準備、実施しています。

全てのプログラムに等しい出発点は「1 to 1」一ひとりひとりと向き合う態度にあります。相手の年齢や経験に関わらず、その人が持つ価値観が人や作品と出会う中で揺り動かされ、心が自由に広がる機会を持てるよう、傾聴と対話を重ねます。

本冊子には基本情報のほか、写真や実例をいくつか掲載しました。ご利用の一助となれば幸いです。

水戸芸術館現代美術センター

※掲載したプログラムは2012年3月現在のものです。内容は変更になることがあります。

赤ちゃんからシニアまでのプログラム

- 2 赤ちゃんと一緒に美術館散歩
- 3 プレ・スクールプログラム
- 4 こども・こらぼ・らぼ
- 5 あーとバス
- 6 高校生ウィーク
- 7 シニア向けワークショップ

選んで参加する鑑賞ツアー

- 10 ウィークエンド・ギャラリー
- 11 キュレータートーク

視覚に障害のある人との鑑賞ツアー
「session!」

申込みによる団体プログラム

- 12 学校・団体の鑑賞
- 13 学校へ出張授業

先生のためのプログラム

- 14 協働の風景

- 16 お問い合わせ



赤ちゃんからシニアまでのプログラム

現代美術の面白さ、楽しみ方を知っていただくために、年齢やコミュニティにあわせたアクセスしやすい鑑賞ツアーやワークショップを行っています。

赤ちゃんと一緒に美術館散歩

小さなお子さんと、気兼ねなく美術館へ

昔はよく足を運んでいた美術館や展覧会が、結婚・出産を機に縁遠くなることの原因として、お子さんの館内でのケアやベビーカーを押して鑑賞することへの不安などがあげられます。当企画では就学前のお子さんと保護者の方に美術館で気兼ねなく過ごしていただけます。水戸芸術館のATMフェイス(館内案内係)の中で子育て経験や保育士の資格を持つスタッフが、1階駐車場からベビーカーのまま2階のギャラリーへご案内。ご希望の鑑賞スタイルに合わせてほぼマンツーマンでガイドを行います。控室には授乳コーナーを設置、おもちゃや絵本のご用意もあります。暗い展示室が多い展覧会の際は怖がるお子さんが多いため、「託児付きギャラリートーク」に変更。保護者の方がスタッフと鑑賞しているあいだ、お子さんをお預かりします。

対象 = 未就学児とその保護者(各回先着5組)

開催 = 企画展につき2日、各日2回(1時間)

参加費 = 無料(ただし展覧会入場料が必要です)

申込み = 個人(電話申込み)



館内案内係とお子さま、お母さま、お祖母さまと三世代で鑑賞

参加者の声

子どものペースで、安心してゆっくり観られました。／子どもも反応して、ママもしっかり楽しめる内容で良かったです。／じっくりと、本当の散歩のように行ったり来たり、好きな作品の前で立ち止まったりできて、ゆっくり見れるのが子どもにも親にもとても有難かったです。／子どもと夫と素敵な空間にいた時間はとても心地よく、とても嬉しい企画をありがとうございました。(参加者アンケートより)

プレ・スクールプログラム

>>> 幼稚園・保育園の年長クラス / 要申込み

園児のための鑑賞ツアー+造形ワークショップ

柔軟な感受性を持つ幼少期の多くの子どもに来館の機会と美術館での楽しみを提供するには公教育との連携が必要です。比較的時間の融通が利き、園バスの利用も多い幼稚園、保育園の年長組を対象とした当企画は2007年から本格始動し、赤ちゃんのツアーと同じく乳幼児の対応に慣れている水戸芸術館のATMフェイスのチームが担当しています。プログラムではまず美術館でのマナーを伝えた後、8名前後のグループに分かれ鑑賞します。鑑賞では、展覧会の見どころを園児にもわかりやすい視点で伝え、それぞれの発見や反応を拾いながら巡ります。後半は手遊びなどを交えながら、鑑賞した内容と連動した造形ワークショップを行います。作品を持ち帰ることで、園や家庭で美術館での体験を振りかえることが出来、毎年再び家族と来館する園児が見受けられます。

対象 = 水戸市内の保育園・幼稚園の年長クラス / 開催 = 年1回(6日程度)

参加費 = 材料費実費 / **申込み** = 園単位(各園に送付する申込用紙をFAXでお送りください)



自分でつくった作品を持って





こども・こらぼ・らぼ

親子で楽しくアート体験！

さまざまなアプローチで水戸芸術館に親んでもらうことを目的とした夏休みの家族向けの企画です。2011年は「つくる」「めぐる」「はたらく」をテーマに、4つの造形ワークショップ、劇場のバックヤードツアーや子ども向けギャラリートークなどの3つの館内ツアー、ミュージアムショップスタッフや水戸芸術館のATMフェイスとして働く4つのこどもインターンなど、複合文化施設である水戸芸術館ならではのプログラムを2日間にわたって開催しました。この年はアーティストに加え、他部門、事務局スタッフ、ボランティアや博物館実習生など、のべ70名の大人が協働し、約300名の参加者を迎えました。アートの世界への入り口として、親しみやすさを大切にしながら、子どもが大人ともつくる自由な創造の実験場となるべく、今後の継続開催を目指しています。

対象＝小・中学生とその家族 / **開催＝年1回** (2日程度)
参加費＝材料費等実費 / **申込み＝個人** (Eメール申込み)

参加者の声

普段ほとんど入ることのない「内部」を見たり、制作に参加したことによって、この場所がより身近に大好きな場所になったようです。(7歳児の母) / ちゃんとチャレンジな作りものが多く、子どもの自信につながりました。(10歳と7歳児の母)



親子のためのバックステージツアー「やってみる?劇場」で音響に挑戦!

>>> 小・中学生とその家族 / 要申込み

あーとバス

>>> 小学校～中学校 / 要申込み 送迎バスで行く充実の鑑賞プログラム

水戸市内の小・中学生の美術鑑賞の機会と現代美術との出会いを増やすことを目的に、2008年から開催している鑑賞プログラムです。当館で準備した送迎バスで小・中学生を迎え、美術館の中でのマナーについてレクチャーを行い、10名前後の班に分かれてガイドスタッフと対話しながら展覧会を鑑賞します。また、気になる作品を1人1点選んで感じたことを一言で表現するワークショップや、自由鑑賞の時間を設ける場合もあります。ガイドを務めるのは大学生を中心に、CACギャラリートーカー、水戸芸術館のATMフェイス約40名。展示作品や対話型の鑑賞について、月数回、ガイド向けの研修を受け、充実した鑑賞活動の提供に備えます。この企画は小・中学生のための鑑賞プログラムであると同時に、市民の学びの場という面も持ち合わせています。

対象＝水戸市内の小・中学校
開催＝年1回 (6日程度)
参加費＝年度によって異なります
申込み＝学校の学年・クラス・部活動などのグループ単位
 (各校に送付する申込用紙をFAXでお送りください)

参加者の声

1つの絵や物について話したり、じっくり観察したりすることがあまりなかったため、とても良い機会になりました。(小6) / 考えることはすごく面白いんだと思った。(小6) / 高校になったら「あーとバス」がないので自分で観に来ます。(中3) / 学校と美術館の連携を深め、美術教育を進めていきたい。(中学校教諭) / 学校では交通手段の確保が難しいので、大勢で移動する際にバスで直接送迎してもらえるのは大変ありがたい。(小学校教諭)

スタッフの声

「あーとバス」は自分の将来(小学校教諭志望)に活かせることが山ほどあって貴重な経験ができた。(大学3年) / 絵や美術の知識があまりなく、美術館も遠い存在だったが、自分の関わり方次第でそれらの在り方が変わることを知った。(大学1年) / 他の研修参加者と作品についてディスカッションを重ねるうちに、今までよりも自分の意見を言えるようになった。(大学3年) / 普段、身の周りにあるものも色々な角度で見ようと思うようになった。(大学院2年)



ガイドスタッフや友達と話しながら作品鑑賞



作品を見て心で感じたことを、言葉で表現してみる



学校と美術館をつなぐ送迎バス



高校生ウィークを利用して展覧会を鑑賞



2012年は40名ほどのカフェスタッフが活動しました



写真部によるワークショップ「公開ブリクラ」

高校生ウィーク

>>> 高校生および同年代 / 申込み不要
人とアートに出会う4週間

1993年に開始した高校生と同年代の方が対象の展覧会招待企画です。当初は1日のアート講座を同時開催していましたが、高校生自らが動き関われるように1999年にポスターなどを制作する広報プロジェクトを実施しました。そこで他校の生徒、スタッフなどとの人のつながりに興味を広げた参加者の声からお茶が飲めるスペースを併設、2004年には来館者も利用できる期間限定の無料カフェを開設するに至りました。展覧会と連動したワークショップや地域からの提案企画など、日々さまざまなプログラムが行われるカフェの運営も若い世代が担います。現在はアーティストなどが支援する「ブカツ」の活動も加わり、展覧会、そしてカフェでの学校、地域、世代を越えた交流を通じて、若い世代に多様な人と価値観に出会う機会を提供しています。

対象＝高校生、または15歳～18歳の方（展覧会招待）

乳幼児～一般（カフェの利用）

開催＝年1回（1カ月間）

参加費＝無料（一般の方は展覧会入場料が必要です）

※ブカツ、カフェスタッフへの参加は申込みが必要です。

※ワークショップは材料費等がかかる場合があります。



シニア向けワークショップ

>>> シニアの方 / 要申込み

重ねた年月が生み出す新たなかたちと物語

シニア層に美術館や現代美術に親しんでいただくための、造形ワークショップと鑑賞活動を行います。当センターは開館時より、若年層を対象としたプログラムや館の外で地元の方々と連携して企画を行うなどして、地域との関係を育んできました。現代美術と物理的・心理的に距離のある層へ働きかけを続ける中で、2010年からシニア層に向けた企画を始めました。ますます加速する超高齢社会の中で、公共の美術館が現代美術を媒介にどのように地域の人たちと関わり関係を育めるか、その可能性を探る試みです。同時に水戸のまちで暮らす人々へ、年を重ねてもなお、文化的な活動に参加することで張り合いのある生活を送っていただきたい、という思いを込めた企画でもあります。

対象＝60歳以上（企画により変更あり） / **開催**＝年1回

参加費＝材料費等実費 / **申込み**＝個人（電話申込み）

参加者の声

何かを作るのは学生以来、始めはフレッシュがあったが途中からは楽しくてきた。(77歳・男性) / 一体、何をやるのという感じで参加したのですが、命が少し伸びたかも。頭もやわらかくなれたかも!(68歳・女性) / 作品鑑賞会で他の方の話を聞き、参加した皆さんの心は熱いなと思った。(89歳・女性) / 若い方々と交流できて良かったです。人との交わりが大切です。(86歳・男性)



作品発表会ではどんなことを考えて作ったかを語ります





選んで参加する鑑賞ツアー

どなたでも参加できる鑑賞ツアーです。学芸員の解説に耳を傾けたり、他の人と意見を交わすことで、1人で作品を見た時とはまた違った作品の魅力を発見してください。

ウィークエンド・ギャラリートーク

市民ボランティアと巡るリラックスした鑑賞ツアー

CACギャラリートークが担う毎週末に実施する鑑賞ツアーです。トークを道先案内人、対話を重ねながらギャラリーをめぐる。参加者それぞれが持つ経験や視点によって作品のとらえ方はさまざまですが、ことばを交わすことで、1人では思い及ばなかった作品の新たな見方を発見、共有できる機会となります。トークは企画展について担当学芸員から事前に学びますが対話や情報の出し方に細かなマニュアルはありません。メンバーそれぞれの持ち味を生かしながら、市民ならではの視点と共感力で、参加者の興味や経験に寄り添い、ともに作品鑑賞を楽しむリラックスしたツアーです。

対象＝一般（特に年齢制限はありません）

開催＝企画展開始2週間後からの毎週土・日 14:30～（約40分）

参加費＝無料（ただし展覧会入場料が必要です）

申込み＝不要

※都合により中止となる場合があります。

※参加を希望される方は開始時間にギャラリー入口にお集まりください。

CACギャラリートークとは？

ギャラリートークを専門に活動する1992年に結成された市民ボランティアです。過去に6回の募集、選考があり、現在20代から70代までの男女30名ほどが登録しています。週末のトークを中心に、各人のペースと興味に沿って団体対応やワークショップのサポート、またボランティア通信「mikke!」の発行や自主企画など、多岐にわたり運営を支える心強い美術館の協働者です。

※CACは現代美術センターの英語名称（Contemporary Art Center）の略。ギャラリートークは水戸芸術館独自の用語です。

>>> 一般 / 申込み不要



ギャラリートークと話す参加者



キュレータートーク

>>> 一般 / 申込み不要

学芸員による展覧会の解説ツアー

当館では主に自主企画の展覧会を行っています。担当学芸員が、企画者ならではのエピソードを交え、展覧会の意図や作品について語ります。

対象＝一般（特に年齢制限はありません）／**開催＝企画展につき1回**

参加費＝無料（ただし展覧会入場料が必要です）／**申込み＝不要**

※参加を希望される方は開始時間にギャラリー入口にお集まりください。開始時間は企画展により異なります。



視覚に障害がある人との鑑賞ツアー「session!」

>>> 一般 / 要申込み

伝えあい、ともに作る作品の輪郭

視覚に障害がある人の美術作品の鑑賞としては、手で彫刻などを触る「触察」が知られています。しかしこのツアーは作品に触らず、見える人が見えない人に作品の形状を伝えることから出発します。色、形、大きさや構成、素材感、そして独自の見方や感想など、さまざまな要素を伝える中で、見える側は今まで漠然とものごとを見ていたことに気づいていきます。このツアーは視覚に障害がある方のためだけでなく、見える方にとってもさまざまな既存概念から解放される場となります。全盲の白鳥建二さんが実践してきたこの鑑賞方法は、90年代後半から当館のボランティア研修で行ってききましたが、2010年より白鳥さんをナビゲーターに、広く一般に向けたプログラムとして実施しています。

対象＝一般（視覚に障害がある方を含む）／**開催＝年1～2回**

参加費＝無料（ただし展覧会入場料が必要です）

申込み＝個人（電話申込み）



視覚に障害がある方と見える方が組みになって作品鑑賞

参加者の声

説明することで他者と気持ちを共有することの楽しさを感じた。普段は見過ごしてしまいそうな細部に気をつけて時間をかけて見ることができた。（女性 50代）／最初に見た時の作品のイメージが周りの参加者と話しながら鑑賞することでまた変わっていった。1人だけではなく、みんなの見方を聞きながら話ができただけが良かった。（視覚に障害がある方 男性 20代）



申込みによる団体プログラム

美術館が用意した企画に参加していただく他に、お申込みがあった場合に実施する団体のためのプログラムがあります。お気軽にお問い合わせください。

学校・団体の鑑賞

グループでの来館を楽しく有意義なものに

学校行事、授業、部活動、地域の催しなど団体でギャラリーをご利用になる方に向けて、学芸員による簡単な解説、または、対話型の鑑賞ツアー、そしてタワー等他施設の見学や簡単なワークショップとの組み合わせなど、そのグループの希望内容に沿った対応をしています。水戸芸術館での滞在を有意義にお過ごしください。詳しくはお電話でお問い合わせください。

対象＝幼稚園・保育園～一般（特に年齢制限はありません）

開催＝随時／**参加費**＝無料（ただし観覧会入場料が必要です）

申込み＝希望日の3週間前までに電話連絡

（造形活動を希望される場合は3か月前にお知らせください）

※時期や内容によってご希望に添えない場合があります。

※造形活動は実費がかかります。

参加者の声

生徒は「鑑賞」という経験があまりないので、感想を言うのは難しかったそうです。しかしそれぞれのグループに合わせて、スタッフの方々が臨機応変に対応してくれて、生徒たちも緊張することなく、活動に取り組むことができました。（特別支援学校教諭）

教育目的の来館、減免について

高校生までの教育目的の見学には入場料の減免措置を取ることができます。中学生以下は通常は入場料がかかりませんが、小中学校の見学には引率の先生についての減免書類の提出が必要です。高等学校は生徒、引率の先生ともに減免書類が必要です。

>>> 学校・グループ／要申込み



地元企業の会合でのご利用も



スタッフの話に聞かせる特別支援学校の生徒

学校への出張授業

>>> 学校／要申込み

学校にアートの出前をします

子どもたちに現代美術に触れる機会や場を増やすことを目的に、アーティストが学校へ赴きワークショップを行ったり、CACギャラリートーカーとの作品鑑賞等の出張授業を行っています。来館することが難しい、卒業の記念に共同制作をしたい等、学校のご希望に応じて先生方と相談しながらプログラムをつくります。

対象＝小学校～大学／**開催**＝年1～2回程度

参加費＝材料費等実費

申込み＝希望日の3ヶ月前までに電話連絡

※時期や内容によってご希望に添えない場合があります。

参加者の声

みんなの作品を見たとき、みんないろいろな工夫ができていて全部きれいだなと思いました。（小4）／今まで見たこともない絵や写真がたくさんありました。私はテレビくらいしか芸術の絵を観たことがなかったので、見ていて目が離せなくなりました。（小6）／自分に向きあえたような気がする。（中1）／見方を変えるとたまたま日常でも面白くなるということを学んだ。（中1）／友達の作品を見て、人には人の、自分には自分の大事な個性があるんだ、と思いました。（中1）



小学校の卒業記念に写真家とアルバム作り

先生のためのプログラム

>>> 先生／要申込み

先生として、個人としてアートに親しむ時間を

多くの子どもたちと美術館をつなぐには、日常的に接する先生方の活動への理解と支援が必要です。つなぎ手としての原動力を期待しつつ、日頃多忙な先生方ご自身のリフレッシュのために現代美術を楽しむ招待ツアー等を実施します。また鑑賞授業・出張授業等の相談に応じます。

対象＝学校教育および社会教育に関わる方

開催＝随時／**参加費**＝無料（造形活動は実費がかかります）

その他の受け入れ

博物館実習の実施

博物館学芸員の免許取得を目指す学生のために毎年、7月～8月の2週間程度、博物館実習を行っています。実習生は書類選考により決定します。

職場体験

職場体験の中学生を若干名受け入れています。随時受付となりますので、ご希望の日程と人数が決まりましたら水戸芸術館事務局にお問い合わせください。

TEL.029-227-8111（水戸芸術館代表）

※人数、実施日より受け入れができないことがあります。

協働の風景

水戸芸術館現代美術センターの活動は教育プログラムに限らず、多くの方々の理解と協働によって支えられています。自分の居る場所を楽しみを作り、またその楽しみをさらに多くの方と共有しようとする方々の熱意と愛情が、人と街、美術館を育てます。

1. 日比野克彦 明後日朝顔プロジェクト水戸/HIBINO CUP(2005～) 個展を機に当時水戸青年会議所のメンバーだった方々を中心とする実行委員会が、毎年行う日比野克彦さんのサッカー大会、朝顔収穫祭などの運営を担います。2. おみやげプロジェクト(2006～) 展覧会と連動して製菓会社などと特産品を使用したお菓子を開発。地域発のお土産として水戸駅他で販売中です。3. 大友良英「アンサンブルズ・パレード」(2009～2011) ジャンルの異なる様々なバンドが街をパレードし水戸芸術館の広場に集合、即興演奏を行いました。水戸商工会議所、市民団体 MeToo 推進室との共催です。4. 赤ちゃんと一緒に美術館散歩(2005～) 地域の子育て支援 NPO をモニターに迎え、主にバリアフリーの観点から寄せられた意見を足がかりに考案した企画です。その NPO が県内に配布する広報誌等で募集告知も行ってきます。5. あーとパス(2008～) 小中学生のための鑑賞ツアーのガイドスタッフは茨城大学、常磐大学、筑波大学の協力を得て募集、研修も大学関係者が水戸芸術館の担当者とともに担います。7. 高校生ワーク「フカツ」(2009～) アーティストや研究者、学芸員など地域の大人たちが毎年高校生とともに多様な活動を展開。個人々へのきめこまやかな支援があつてはじめて成り立つ活動です。8. 「CAFE in Mito」(2002～) 数年に一度行う「CAFE in Mito」展は、アートを紹介して人々のコミュニケーションを誘発しようという展覧会。館内外で行われる各種プロジェクトは多くの市民ボランティアの参加によって支えられています。9. きむらとらうじんじん「野点+妄想屋台祭り」(2008) 陶器の絵付け屋台をひきドラッグクイーン姿で街中に現れる作家とともに市民が24のオリジナル屋台を制作した企画では、神社等多くの場所をお借りしました。10. Nadegata Instant Party 映画「学芸員Aの最後の仕事」(2009) 「現代美術も楽勝よ!」展は、コレクション展がそのまま映画のセットという二重構造の展覧会。水戸の街を舞台に市民約250名が参加し、作家とともにオリジナル映画を制作しました。11. オルタナティブ・スペース「水戸のキワマリ荘」(2007～) 展覧会を機に不動産業の方が若手アーティストに格安の民家を提供。現在はギャラリーやデザイン事務所が入居し、展覧会やイベントを頻繁に行う地域のアート活動の拠点となっています。



ボランティアの募集

トークを専門に活動するCACギャラリートーカーは、数年に1回募集選考があります。それ以外のプロジェクトボランティアは、各企画ごとに募集しています。詳しくは水戸芸術館のホームページをご覧ください。

お得な1年間有効フリーパス

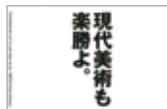
購入した日から1年間、現代美術ギャラリーの企画展に何度も入場できるほか、展覧会毎の情報をお届けします。またギフトとしてもご利用いただけます。取り扱いの水戸芸術館エントランスホールチケットカウンターにて。

●おとなのパス | 2,500円 / 対象：20歳以上

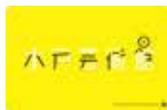
館内ミュージアムショップで現代美術ギャラリーの企画展カタログを5%引きで購入できます。展覧会割引券を2枚お送りします。

●ハイティーンパス | 1,000円 / 対象：15歳以上20歳未満

※ 購入時は年齢を証明するものが必要です。



おとなのパス
デザイン:イチハラヒロコ



ハイティーンパス
デザイン:大日本タイガ組合

水戸芸術館現代美術ギャラリーご利用案内

開館時間：9:30～18:00(入場は17:30まで)

休館日：月曜日(祝日の場合は火曜日)、年末年始

入場料：一般 800円、前売り・団体(20名以上) 600円

中学生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

水戸芸術館ホームページ：<http://www.arttowermito.or.jp>

このガイドブックの内容についてのお申込み・お問合せ

水戸芸術館現代美術センター 教育プログラム係

TEL:029-227-8120 / FAX:029-227-8130



美術館活用ガイドブック「1 to 1」

水戸芸術館現代美術センター 教育プログラム

水戸芸術館現代美術センター資料 第97号

編集執筆：森山純子、中野詩

(水戸芸術館現代美術センター 教育プログラムコーディネーター)

デザイン：石井 一十三(水戸芸術館現代美術センター)

写真：大谷 健二、根本 譲、松本 美枝子

石井 一十三、中野 詩

発行日：2012年3月30日

印刷：株式会社あけぼの印刷

発行：水戸芸術館現代美術センター ©2012

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

禁無断転載

水戸芸術館
ART TOWER MITO

